

平和の尊さを語り継ごう

時が経つにつれ、戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさを体験した世代の人が少なくなっています。播磨町では昭和57年に「核兵器廃絶のまち宣言」を行い、次世代に平和の尊さを伝えるための取り組みを行っています。

▼問い合わせ 企画グループ ☎079(435)0356



●平和祈念講話会

7月31日(金)、中央公民館において、昨年に続き、「二度と原爆の被爆者が出ないように」と啓発活動をされている加古川市原爆被爆者の会から講師を迎えて平和祈念講話会を開催しました。町内中学1年生と住民の方約360人が参加し、講師の被爆体験のお話に耳を傾けました。

最初に映画「にんげんをかえせ」を鑑賞し、会長の相良勝三郎さん、副会長の南澤弘さん、会員の田島嘉一さんからそれぞれの被爆体験について話を聞きました。「どんなことがあっても戦争は許されない、二度とこんな苦しく辛い思いはしたくないし、させたくない」と訴えられました。



●平和映画会

8月1日(土)、アフガニスタン紛争の地雷で片足を失った少女と義肢装具士を目指す主人公を物語にした映画「アイ・ラブ・ピース」を上映しました。

●平和展

太平洋戦争では、多くの民間船舶が徴用され、戦争に巻き込まれました。船約15,000隻、船員60,331人が戦没したとされています。今年は、神戸市中央区にある「戦没した船と海員の資料館」のご協力をいただき、戦没船の資料展示を行いました。

長崎だったのか」など、原爆について勉強をしました。そして班に分かれて「被爆の実相を伝えるためにできること」について話し合いました。

2日目は、ピースフォーラムの前に平和式典に出席しました。式典では、「献水」や「献花」「児童合唱」など、それぞれが自分たちの方法で平和の大切さ、原爆の残酷さを伝え、原爆死没者を弔いました。そこで私は核兵器をなくすことが平和な世界の実現へとつながるのだと改めて実感することができました。

そして、ピースフォーラムでは、自分たちにとって平和と思う時と、平和でないと思う時を出し合い、それをもとに平和宣言文を作りました。

この2日間で私はとても良い経験ができました。いつか平和な世界が実現できるよう、私も

頑張りたいと思います。

『青少年ピースフォーラム』



播磨南中学校 江草 千春

私は、8月8日から「平和特使」として長崎へ行き、平和学習会や平和祈念式典に参加してきました。

平和学習会は2日間あり、1日目に被爆された方のお話を聞きました。そのお話を聞いて、私は信じられない思いでいっぱいになりました。お話を聞いた後、班に分かれて平和学習をしました。

次の日、8月9日には平和記念式典がありました。長崎市長がした平和宣言は、世界中がす

町では、今年も8月8日(土)10日(月)に長崎へ「播磨町平和特使」を派遣し、全国から集まった中学生が平和についての宣言を行う「ピースフォーラム」と、「被爆64周年長崎原爆平和祈念式典」へ出席しました。また、7月31日(金)に、「平和祈念講話会」、8月1日(土)に「平和映画会」を開催しました。

中学生が「播磨町平和特使」として、ピースフォーラムに参加しました

『青少年ピースフォーラム』



播磨中学校 松田 直樹

僕は、小学校の修学旅行で、広島市の原爆資料館へ行きました。しかし、展示されている写真や品物は、あまりにも生々しく、残酷でじっくり見ることもできず、足早に通過しました。「15歳のナガサキ原爆」という本に出会い、中学生となった今、今度こそ、原爆というものを真正面から見つめようと思い、「平和特使」に参加しました。

実際に原爆資料館に行くこと、いろいろなことがわかりました。僕は、長崎に行き改めて戦争や原爆は恐ろしいものだと感じました。これまでは、「しよせん」今の状況では、戦争などはま

るべきだと思いました。

午後からはまた、平和学習会がありました。この日は、自分達の班で、平和宣言文をつくり、何班かは発表しました。

2日間の平和学習会を終え、戦争ほど嫌なものはないと改めて思いました。そして、この学習会で聞いたこと、見たことをいろいろな人たちに伝えていきたいなと思いました。

『おそろしい戦争』



播磨南中学校 井谷 夏美

私は播磨町の代表として、長崎「青少年ピースフォーラム」に参加させて頂きました。参加して、戦争についていろいろお

すないだろう」という甘い認識でした。しかし、「過去の出来事」と考えるわけにはいきません。戦争や核兵器のない平和な世界をつくるために、「平和特使」を通じて学んだことを生かしていきたいと思っています。

『長崎で学んだこと』



播磨中学校 酒井 理子

私たちは8月8日から8月10日まで青少年ピースフォーラムに参加しました。

1日目、最初に、被爆体験をされた山脇佳朗さんに話を聞きました。話の内容はとても残酷で、私には想像もできない世界でした。話を聞いた後、私たちは「何故落とされたのは広島と

話を聞く中で、一番印象に残ったのは、当時11歳で被爆された、山脇佳朗さんの被爆体験でした。私はこのお話を聞いて、とても気持ちが悪くなりました。聞いているだけでこんなに気持ちが悪くなるから、実際に見た山脇さんは、どんなに苦しかったらうと、とてもつらい気持ちになりました。

こんな苦しみを生み出した戦争を、私は絶対許しません。二度とこのような戦争が起きてはいけないと思います。

そのためにも、私たち、戦争のおそろしさを体験していない若い世代が、このような、戦争のおそろしさを知る機会を上手に利用し、それを次の世代に伝えていかないといいけないと、私は思います。私も今回の経験を生かして、次の世代の子に伝えていきたいと思っています。